＝　機関誌「エルダー」取材の裏側に密着　＝

2022 年 10 月 25 日（火）に、当機構が発行する機関誌「エルダー」のシリーズ「北から南から」の取材のため、株式会社英田エンジニアリング（代表取締役社長　万殿貴志氏）を訪問しました。

具体的な高年齢者雇用に関する取組については 2023 年1月号に掲載されていますが、職場でいきいきと働く高齢者の方を中心に、今回の取材の裏側を報告させていただきます。

同社は、岡山県美作市に本社を置く汎用機械器具製造業の会社です。近年増えている自動車のアクセルペダルの踏み間違いによる事故を防ぐアイアクセルや地中を深く掘らなくても簡単に取り付けることができる自動車盗難防止用バリケード i/lock（アイシャロック）など、様々なアイデア商品を開発されています。また、第 12 回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞の審査委員会特別賞を受賞され、多方面から注目を集める状況にあります。

万殿社長に案内いただき取材を進める中で、70 歳までの再雇用が終了して退職された後も、月 20 日の勤務（会社と在宅）で活躍されている 植田 得之亮 さん（77 歳）からお話を聞くことができました。

「みんなから得ちゃんって呼ばれています。」と関西のイントネーションで自己紹介。ヘルメットを取ると同時に「会社の向かいにある美容室に通ってカラーしています。」と。素敵な笑顔と巧みな話術に、すぐに引き込まれました。（以降は親しみを込めて「得ちゃん」と表記します。）

得ちゃんは、退職まで配属されていたNIC製造部での発送作業のほかに、社内で必要とされる備品や器具といったハード類のオーダーメイドに対応。材料費は支給されるものの、木材や 100 円ショップの商品を使うなどコスト削減の工夫は怠りません。

5Sを意識できる作業台や工具棚などは自慢の作品。これらの中で製作に苦労したものを聞いてみると、緩衝材のカッター台へ案内してくれました。

緩衝材の重みによる弛みを考慮しつつ、まっすぐ採寸して切るために、縦置き・横置きと配置場所を変え、何度もテストを重ねて出来上がった作品がこちら。

「どんな構造にするのか考えている時間が楽しくて、自宅の工房が緩衝材だらけになったのも良い思い出です。」と笑顔。構造が決まって完成が近づくにつれて次の依頼が待ち遠しくなるそうです。

得ちゃんのオリジナルハードは各部署に設置してあり絶賛活躍中。下の写真はマシニングセンター用の作業台と加工に必要な部品の収納台。現在２台が稼働していますが、なんと取材中、万殿社長から「もう1台増やす。」と伝えられ待望の製作依頼が入りました！

「朝起きて、やることがある。行くところがある。これがどれだけ幸せなことか。製作したものを納品するとみんなから『ありがとう』と感謝されるからとても幸せ。しかし、社長はどんなに会社を大きくしても、体調がよくない状態でも会社のために仕事されても、誰からも感謝の言葉がもらえない可哀そうな立場。僕は感謝がもらえて本当に幸せ。」と話す得ちゃん。かっこよすぎます。

得ちゃんがいきいきと働き活躍できているのは、万殿社長が実践する『健康経営』の結果であると感じました。

取材では得ちゃんの活躍だけではなく、2019 年に完成した、素晴らしい福利厚生棟も案内いただきました。これら『健康経営』に関するお話は『エルダー』1月号に掲載されます。そちらも是非ご覧ください。

万殿社長、得ちゃん、そして英田エンジニアリングの従業員の皆様、取材にご協力いただきありがとうございました。

また、当支部が 10 月６日に開催した「高年齢者雇用推進フォーラム」においても『中山間地域から放つ「高齢活躍社会」のための快進撃』と題して、万殿社長から英田エンジニアリングの取組みを紹介いただきました。中でも耕作放棄地を活用し、高齢者だけではなく障害者雇用を目的としたアグリビジネスを推進されているなど興味深い話を頂戴し、重ねて感謝申し上げます。

当該フォーラムの内容は期間限定で視聴もできますので、興味がある方はこちらからご覧ください。

岡山支部　高齢・障害者業務課